

平和教育の取組事例報告書

報告年月日 2022年(令和4年)3月14日

都市名・国 北海道釧路市・日本

取組の名称	平和のつどい～被爆体験伝承講話～
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input type="checkbox"/> 複合()
テーマ・目的	テーマ：原爆 目的：原爆の悲惨さや平和の尊さを中高生などの若い世代や一般市民に理解していただくため
対象者 (年齢・学年、人数等)	中学1年生 66名 一般市民 15名 (例:12歳の子ども60名、保護者や市民30人など)
実施場所	釧路市立幣舞中学校 体育館 釧路市生涯学習センター(まなぼつと幣舞) 5F ハイビジョンシアター
実施期間	令和3年11月25日(1日間) (昭和61年から毎年開催) ※定期的に行う取組は、その旨を記入し、いつから、どれくらいの頻度で実施しているかを記入してください。
取組の概要	広島市より、被爆体験伝承者をお招きし、被爆体験伝承講話を行ったもの。 例年、市内の小中高等学校で開催していたところ、本来、9月下旬の予定が緊急事態宣言で延期となった。その際、当初予定していた高校において授業日程の都合等により開催できなくなったため、一般向けに時間帯を夜間として開催しており、中学校については、延期の上で予定通り開催している。 (授業、イベントはプログラムの次第を、その他(例:コンテスト等)はそのプロセスを、具体的に記入してください。)
参加者の反応	中学生は、真剣に聞き入り、原爆の悲惨さや平和の尊さを理解していました。 一般参加者は、講話後も伝承者と熱心に話をするなど、被爆体験伝承講話を聴くことのできる機会を貴重なものとしてとらえていました。
成果	中学生向けにおいては、被爆体験伝承講話を通じて原爆の悲惨さや平和の尊さへの理解を深めることができた。また、釧路市が進める平和事業などについても周知を図ることができた。 一般向けにおいては、例年にはない取り組みであり、参加者からは好評を博している。
課題	一般向けの開催において、コロナ禍ではあったものの集客に課題があった。 一般向けに開催する場合、事前の新聞報道等のほかに教員を志す学生や修学旅行で被爆地を訪れることになる学校教職員の事前学習に資するものであるなど、重点的な周知を行うことにより、参加者の確保につなげる必要があるものと考えた。
	取組で使用した素材について(図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください。)
	上記素材の共有の可否(取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。) <input checked="" type="checkbox"/> 掲載可能(素材を添付してください) <input type="checkbox"/> 掲載不可 <input type="checkbox"/> 不明

※ 画像等の資料がある場合はメールに添付して提出してください。

第34回平和のつどい～被爆体験伝承講話～



